



避難形態に拘わらず被災者が 支援物資に確実にアクセスする ことができる仕組みづくり

徳島県美馬市企画総務部危機管理監 中山 博之



1 徳島県美馬市の概要

美馬市は、徳島県の東西のほぼ中央、日本三大暴れ川の一つ『四国三郎』の異名を持つ一級河川の吉野川沿いに位置している内陸市であり、総面積の約8割の森林を有する自然豊かな美しいマチです。

一方、台風による吉野川の氾濫や内水氾濫、土砂災害や孤立化地域の発生など、古くから多くの自然災害を経験してきた地域でもあり、そのため、様々な災害リスクへの対応を求められている自治体でもあります。

2 分散避難の推奨と課題等

新型コロナウイルスによるパンデミックが日本でも顕著になってきた頃から、「三密」を避けるための『分散避難』が推奨されるようになりました。

分散避難は、プライバシーの確保や感染症罹患リスクの低減、避難所運営負担の軽減等のメリットがあることは事実ですが、他方で避難所外に避難されている被災者自身が、その旨を自己申告しない限り、その実態や分散避難している事実すら、市が把握することが極めて困難であるという根源的なデメリットがあります。

そのデメリットが、避難所外避難者への支援の欠落や遅れとして発露することが極めて大きな課題であると認識しています。

そのため、分散避難の中でも最も多くの被災者が選択する傾向にある車中泊避難への対応として、市が実態把握しやすい環境を整え

るため、屋根付きかまどベンチやマンホールトイレ等を附帯した「指定車中泊避難場所」の整備も、順次、進めています。

3 支援物資の供給体制の整理

美馬市としては、分散避難の抱える課題に如何に対応すべきかを考え、『誰ひとり取り残さない支援の実現』を目指して、国や県、関西広域連合からの支援物資や、協定締結先事業者からの流通備蓄物資が、市が管理・運営する「地域内物資輸送拠点」を経由し各指定避難所等に配送されるのに加え、大量の支援物資によって地域内物資輸送拠点がパンクしないよう、支援物資を一時的に集積しておく「地域内物資集積拠点」を設定しています。

また、在宅避難者や車中泊避難者など避難所以外で避難生活をする被災者の誰もが支援物資にアクセスできるための拠点として「地区物資供給拠点」を臨時設置するなど、被災者の元に確実に支援物資が行き届くためのあるべき物資供給体制を整理しました。



令和5年9月に共用開始した美馬市総合防災倉庫
(地域内物資輸送拠点)

4 物資供給体制の整理に基づく 防災モノづくりと防災ヒトづくり

①防災モノづくり

過去の大規模災害時においては、在宅避難者などの避難所外避難者が指定避難所にある支援物資にアクセスできないという事例が相次ぎました。

これは、避難所の運営者による「避難所にある支援物資は避難所に避難している被災者に配給するもの」という誤解や、在宅避難者等が自分よりも被災レベルが高い被災者が指定避難所に避難していると考え、指定避難所に支援物資を貰いに行くことを躊躇するといったことが原因で起こったものでした。

こうした課題を乗り越えるため、美馬市の4か所（旧町村区に各1か所）に「地区物資供給拠点」を設けることとしました。エアーテントや発電発電機等を備え、大規模災害時に臨時に開設して、車中泊避難者やテント泊避難者、在宅避難者など様々な避難形態を選択している被災者の誰もが遠慮なくかつ確実に支援物資にアクセスできる拠点として設定しました。



大規模災害時に臨時設置する地区物資供給拠点

②防災ヒトづくり

支援物資が物資輸送拠点などで滞留することを防止するため、搬出・搬入口を多く備えた物資輸送拠点（美馬市総合防災倉庫）を新

設することに加え、拠点にある物資の車両への積み下ろしを、協定締結事業者だけでなく、市職員も自在に実施できるよう、防災倉庫の供用を開始した令和5年度から、毎年度、市職員8人程度にフォークリフト運転技能講習を受講させるとともに、運送事業者を交えた「物資小口輸送訓練（ラストワンマイル輸送訓練）」を実施して運転技能を向上させるなど、人材育成を計画的に実施しています。



物資小口輸送訓練で職員がフォークリフトを使って物資を積載している様子

5 終わりのない 防災・減災対策

「災害時は、平素やっていることしかできない。平素やっていたことさえ、災害時は十分にできない。ましてや、平素やっていないことなど災害時には絶対できない」という過去の大規模災害時の教訓を踏まえ、平素からシームレスに整齐と災害時対応ができるよう、市としては、自助・共助・公助すべての側面において、ソフト・ハードの両面から『モノづくり』、『ヒトづくり』そして『制度づくり』を継続していきます。加えて、国の機関や他自治体、協定締結事業者等の防災関係機関と、平素から顔の見える『関係づくり』も、積極的に行って参ります。